

透析患者のリビングウィルに対する認識調査

(医) 三祥会幸町記念病院看護部¹⁾, (医) 三祥会幸町記念病院外科²⁾,
(医) 三祥会幸町記念病院内科³⁾

○小林亜由美 (こばやし あゆみ)¹⁾, 寺本紹美¹⁾, 佐久間佳織¹⁾,
玉井るみ子¹⁾, 平尾佐江子¹⁾, 西村里見¹⁾, 佐藤真由美¹⁾,
大野呂和栄¹⁾, 小井正美¹⁾, 秦 佳子¹⁾, 松田浩明²⁾, 岡 良成²⁾,
高津成子³⁾, 宮崎雅史³⁾

【はじめに】肺癌末期透析患者に対するリビングウィルに沿った看取りの経験を契機に、透析患者が終末期をどのようにとらえているか知る事の重要性が再認識された。そこで今回、当院維持透析患者に対してリビングウィルに関するアンケート調査を行ったので報告する。

【対象・方法】「リビングウィルに関するアンケート」を独自に作成。30～90歳代の当院維持透析患者145名にアンケート調査を行い、うち120名より回答が得られた。

【結果】リビングウィルのことを知っていた患者は34名で、すでに作成している患者は5名にすぎなかった。リビングウィルを知らなかった患者は86名で、その内29名が今後作成することを希望された。

【まとめ】アンケート調査をした事で、患者が終末期に対して考える機会となった。今後希望する患者にはリビングウィルを作成し、その人らしい終焉が迎えられるよう援助していきたい。